

まとめ

- 最小イントロン決定はアノテーションの決めごとにより大きく依存する。
- ヒト転写物データによると、最小値付近の鋭いピークは65塩基長からはじまる。
- 各イントロンあたり転写物数も65塩基長から急激に増加する。
- 65塩基長より短いギャップにも複数の転写物によって支持されるイントロン(?)らしいものが散在する。
- 近縁種の転写物に相同な極小イントロンが確認できた。

• 転写物データによるイントロン長の分布はスプライセオソームがスプライシングするのに最適なイントロン長(物理的な限界)を示唆するものの、限界の長さ以下でもイントロンは存在している。

どのような条件のときに限界以下のイントロンがスプライシングされるか興味深い。今後の課題に。